

## ■効果の見える治水事業

### 香川県 八幡地区(観音寺市)の急傾斜地崩壊対策事業

#### 『八幡地区 急傾斜地崩壊対策事業』

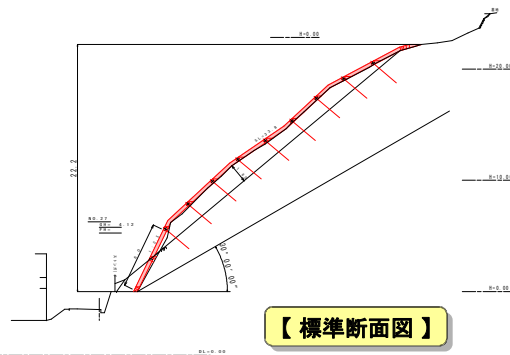
香川県西讃土木事務所 児玉 学



八幡地区は、県西部の観音寺市八幡町に位置し、保全対象人家 12 戸、高さ 28m、傾斜度 45° の急傾斜地であり、斜面崩壊による被害を防止するため、昭和 53 年 12 月 9 日に急傾斜地崩壊危険区域に指定し、昭和 54～55 年度にかけて、急傾斜地崩壊対策事業として擁壁工と落石対策工を実施しておりました。

しかし、平成 16 年の台風等の豪雨により土砂の崩落及び流出が発生したこと、また斜面の風化・浸食が進行し、小崩壊が発生し、放置すれば重大な災害につながる恐れがあることから、地元住民からの強い要望を受け、急傾斜地崩壊対策事業として法面対策工を実施しました。

対策にあたっては、当該地区が寛永通宝の砂絵で有名な琴弾公園に近接し、風致地区に指定されているとともに、瀬戸内海国立公園内の一部でもあることから、自然環境及び景観に配慮する必要がある、現況地形及び植生を大きく改変しない工法を選定する必要がありました。



そのため、切土は行わずに現況の地山にあわせた施工が可能な吹付のり枠工と鉄筋挿入工を採用し、枠内に厚層基材吹付を行うとともに、現地で生育している高木樹は伐採せずに残し、低木樹は切り株を存置し再生可能とすることにより周辺環境との調和を図ることとしました。

工事は平成 22 年 3 月に着手し、地元住民の皆様のご協力もあり円滑に施工することができ、同年 8 月には無事に竣工を迎えることができました。

ハード整備を終えたことから、今後はソフト対策として、土砂災害(特別)警戒区域の指定促進、また警戒避難情報の提供などを行い、総合的な災害対策の推進に努めることとしています。



【完成後】



【着工前】



## 「安心できるまちづくりを目指して」

観音寺市長 白川 晴司



香川県の最西部で四国の中央部に位置する本市は、平成 17 年 10 月に近隣の大野原町、豊浜町と合併し、新生観音寺市として出発しました。人口は約 6 万 3 千人、面積は 117.47 km<sup>2</sup>で、東部から南部にかけては四国霊場第 66 番札所として有名な雲辺寺山から海岸部に讃岐山脈が連なっており、北部は七宝山などの丘陵地が連なっています。また中央部には、三豊平野が広がり、東西にわたって財田川、一の谷川、柞田川が流れ、その河川の流域には豊かな田園地帯が形成され、財田川の河口付近の有明浜には砂絵の寛永通宝が姿を見せています。

気候は、温暖な瀬戸内式気候で降水量が少ないため、農業用のため池が多数点在する特色ある風景が印象的な、自然に恵まれた災害の少ないまちであります。

しかし、平成 16 年には、かつて経験したことがない程の台風の襲来を受け、本市は山間部を中心に大きな被害を受けました。

また、八幡地区の急傾斜地においても豪雨により、法面崩壊の危険性が十分にありましたが、幸いにも被害は出ませんでした。しかし急傾斜地周辺には住宅等が密集しており、斜面が崩壊した場合には被害は大きなものとなるのが予想されます。その状況を見てがけ上に位置する興昌寺や斜面下部の住民より対策事業の要望があげられました。

興昌寺は急傾斜地上部に位置し、その境内には俳諧の祖、山崎宗鑑が客に一夜以上の滞在を許さなかったといわれる一夜庵(市指定文化財)があります。

また、平成 16 年災害においては、河川においても多大な被害が発生しました。川が氾濫して道路が浸水し、農地や住宅に土砂が流入した箇所もありました。住宅密集地を流れる河川流域の住民からは河川改修の要望が出されております。河川の氾濫は一瞬にして人命や財産を奪ってしまうため、関係者の協力を得ながら改修に取り組みればと考えております。

自然災害は待ってくれません。今後は新しい手法を模索することも含めて、国、県と調整を図り、安心して住みやすいまちづくりを目指して参りたいと考えております。



一夜庵



夕日と銭型砂絵